



2018 年度 LSO 利用状況

今年度のLSOの進路選択および学習支援活動についてお伝えします。進路選択支援活動において、昨年度と比較すると進路選択・履修相談の延べ利用者数は大幅に減少しました。その背景には特定専門職員(スタッフ)の総員4名中2名が4月に新規雇用され、相談が最も集中する4月の時点では、ほぼ2名のみで対応していたことが考えられます。本年度の場合、延べ532人の相談者のうち300人弱が4月に集中しました。スタッフ1人当たりの対応件数で見ますと、昨年度とほぼ同等の件数となりますが、2019年度は1人でも多くの学生を支援できるよう体制を整えて参ります。

学部・学科等紹介の一環として9月と2月に開催されたアカデミック・アドバイザーによる移行先個別相談会が盛況でした。学生から“新薬の開発に興味があるが、薬剤師の国家資格も取りたい。どのような選択肢があるか。”、“環境と人間に関わる問題を勉強したいが、工学部環境社会工学科のコース選択で悩んでいる。”といった専門的な相談が多く寄せられました。そのような学生に実際の助言や詳細な情報を提供することができ、アカデミック・アドバイザー制度が効果的に機能したものとなりました。

学習支援活動では、昨年度までの学習サポート(個別学習相談)の利用者は微増傾向にあ

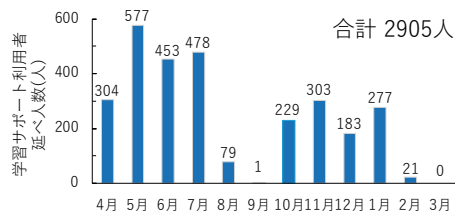


図1 月別の利用者内訳

りましたが、今年度の延べ利用者数は2905人となり、昨年度の2489人に比べ大幅に増加しました。利用者のほとんどが1年生であり、特に綜合理系・学部別理系の学生さんが中心となっています。月別の利用状況を見てみますと、昨年度の1学期期末試験期間で見られた利用者の大幅な減少はなく、各学期の中間試験と期末試験期間で利用件数が多いことが分かりました(図1)。学期別で比較しますと、2学期の利用者が減少しています。LSOでは学習支援に加え、学生さんには「主体的な学習」の重要性を常に伝えています。自ら学んでいく意識が徐々に浸透しているのかもしれない。

また、質問内容の内訳を見ますと具体的な問題・課題の解法に関する質問が最も多く、次いで教科書や授業内容に関する質問が続く、全体の8割以上を占めました(図2)。その他、レポートの確認や添削依頼もありました。さらに、科目別で見ますと数学、物理学、および物理学の要素を含む化学IIに関する質問が多くあったため、数学と物理学のチューターを増員しサポート体制を強化してきました。今後も学生さんのニーズに的確に応えた学習支援を目指して参ります。そして、一人でも多くの学生さんが希望に沿った移行を果たせるように、進路相談および学習支援の両面でサポートして参ります。

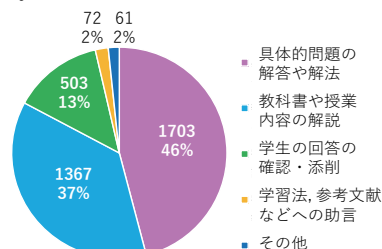


図2 質問内容の内訳

スタッフの心象 第20回「LSOの隠れた機能」

このコーナーではLSOに寄せられる進路・修学・学習相談の内容を元に、相談現場の様子をお伝えします。

「ラーニングサポート室」と聞くと、学習サポートと進路・履修相談がまず思い浮かぶかもしれませんが。毎年3000件を超える相談が寄せられており、初年次生の相談窓口の一つとしてラーニングサポート室の認知度は着実に上がってきています。一方で、学習支援や進路選択支援と並んでラーニングサポート室の三本柱と位置付けられているデータ分析業務は、普段表に出ることはありません。データ分析に関して学生の皆さんとの重要な接点となっているのが、本学アドミッションセンターが実施し、毎年学生の皆さんに回答をお願いしている「学生アンケート」です。ラーニングサポート室ではこの「学生アンケート」の集計と分析業務に関係しており、年間3000件超の相談対応データと併せ、総合入試制度の検証や本学の教育改善の重要な手がかりとして、学生の皆さんの貴重な意見をいかに整理し、意思決定の場に届けていくか、その方途を日々探っています。

この「学生アンケート」には毎年多くの学生から真摯な回答が

寄せられており、そのデータに触れるたびに厳粛な思いとなります。一方で、アンケート実施側としては回答率をいかに上昇させていくかが課題となっています。学生の皆さんにアンケートに回答する意義を感じてもらい、回答率を上昇させる取り組みの一環として、アドミッションセンターでは今年度から学生アンケートの集計結果を学内限定で公開することとしました。本学高等教育推進機構ウェブサイト内の項目「学生アンケート」をクリックすると閲覧が可能になっています(URLは[<https://www.high.hokudai.ac.jp/center/stenquete/stenquete.html>])。

「学生アンケート」は毎年4月(卒業年次生は年度末)に実施されていますので、学生の皆さんにはぜひ継続的にアンケートにご協力頂ければと思っています。

(立花 優)

昨年度に引き続き、3大学合同研修会が開催されました。北大のLSOからチューター3名、東北大学のStudent Learning Advise (SLA) からメンバー5名、福島大学の学びのナビからメンバー4名が参加しました。前半部で行われた各大学の活動紹介では、参加したLSOスタッフおよびチューターが、進路選択支援、英語の学習サポート、および学習支援全般の現状や課題について発表しました。各大学の活動紹介を通して、利用者主体の自主ゼミや英会話カフェなどの企画発信に力を入れている北大、出前授業やセミナーなど教育者養成を兼ねた活動に重きをおいている福島大、そして総合入試制度に基づいた進路選択・学習支援を行っている北大で、各大学の教育制度に沿って取り組んでいる支援体制について詳しく知ることができました。また発表後のディスカッションでは、学習支援について様々な視点からの利点や課題が抽出され、チューター同士の熱心な意見交換が行われました。

後半部のグループワークでは、東北大学の佐藤智子先生の発案により、学

習支援者としての能力向上を目的としてナラティブ・モデルを通じたファシリテーション・グラフィック (FG) の研修が行われました。ナラティブ・モデルでは、相談者と対応者の間で双方向のコミュニケーションを通して互いの意図を理解しながら会話を進めていきます。そして、個々の発言を図式化し記録することで、相談者の発言の意図と内容を正確に理解し、的確かつ端的に発言内容をまとめていきます。今回のグループワークでは、会話を通じて相手の伝えたいことを引き出し、時間を意識しながら発言を要約する練習が行われました。学習支援のみならず、進路選択支援の場でも活かしていきたいと考えています。

さらに、「同じ立場の者同士のコミュニケーション」が、アイスブレイクや情報共有の効果的な一手であると再確認させられました。研修には

博士課程の大学院生から学部1年生までの幅広い学年層のチューターが参加しましたが、教員やスタッフがコミットせずとも、自然と学習支援に携わる者同士の連帯感が生まれていく様子が見て取れました。LSOの進路選択支援では、基本的にスタッフと相談者の1対1の形式で対応をしていますが、同じ志をもつ学生同士が集まり意見や情報交換できる場を設け、その手助けのためにスタッフが控える、そのような学生視線の進路選択支援の機会があっても良いのではと感じました。そのような点で、今回の研修会はスタッフである私にとっても大変有益な勉強の場となりました。

(城谷 大)



退職に寄せて

「LSOの学習サポート運営」

LSO特定専門職員 山津直樹

2018年4月に着任し、この度2019年2月末をもちまして退職することとなりました。私は素粒子理論を専門とし、LSOでは主に数学(線形代数学、微分積分学、統計学)の学習サポートと学習サポート運営・統括の業務(チューター雇用、TA予算管理、チューター配置時間割作成、学習サポートデータ

分析・報告書作成など)を行っていました。現状のLSOスタッフ陣(理系3名、文系1名)のみでは既に年間のべ3,000名程度まで利用者の膨れ上がった学習サポート対応を維持することはできません。すくなくとも現体制でのLSO学習サポートは大学院生チューターの方たちに支えられている部分が非常に大き

く、今年度は第1学期16名と第2学期19名(継続13名+新規6名)の全体で24名の大学院生にご協力頂きました。今後も現スタッフと後任のスタッフにご協力頂ければ幸いです。

最後になりますが、この1年間関わって頂いた皆様はこの場を借りて御礼申し上げます。

編集後記

学期を通して学習支援の利用者が多く、学部学科選択をはじめとする進路選択支援は陰に隠れがちです。しかし進路選択支援はLSOの最も重要な役割です。2019年度は進路選択についての個別相談の充実化を図り、これまで以上に取り組んで参ります。2018年度も多くの皆様にご支援ご協力を頂き、誠にありがとうございました。

(秋山永治)

ラーニングサポート室

〒060-0817 札幌市北区北17条西8丁目 E-mail: lso@high.hokudai.ac.jp

北海道大学高等教育推進機構2階 URL: <https://lso.high.hokudai.ac.jp/>

電話: 011-706-7526 Twitter: https://twitter.com/lso_hokudai

